◆経営と健康66

日本最初の商社結成

天翔ける

坂本龍馬②

一龍斎貞花

母亡き後、姉のスパルタ教育によって 泣き虫返上、道場へ通い19歳にして目録 を授けられ、この時龍馬は、身長170cm、 体重80kgに成長。父親から「この上は江 戸でさらに修行してきなさい」、藩へ願い 出て15ヵ月の期限をもらい江戸へ。当時 藩の外へ出るには特別な許可が必要でし た。鉄道もなく江戸への留学は、現在の 海外留学と同じです。船と歩きで1ヵ月 もかかった。道中や江戸での生活を心配 した父から「よいか、忠孝に励み、土佐 の国のために尽くすこと、無駄使いをさ け、女色に溺れるな」という3ヵ条の教 えを授けられ、お守りとして肌身離さず 持っておりました。千葉周作の弟で、小 千葉と呼ばれる千葉完吉道場へ入門し北 辰一刀流を修行。15ヶ月間江戸へ留学と いうのは相当裕福であったことがわかり ます。娘の佐那と恋に落ち結婚を約束す る仲になったものの、後にお籠と結婚、 佐那は生涯独身で、お墓には坂本龍馬室 と刻まれている。龍馬を愛していたので しょう。剣術もめきめき上達し、この道 場で名を知られる存在になっていった。 多くの人物と交流し、海防術や西洋の砲 術を学ぶため佐久間象山に弟子入り。

黒船襲来

嘉永6年6月ペリーが4隻の黒船を率いて江戸湾へ、大騒ぎの中龍馬も浦賀へ駆けつけ、初めて黒船を見るや、土佐一国ではなく、日本の国を強く意識したのでございました。

このペリーが最初の黒船来襲のように 思われているが、そうではないんです。

寛政4年(1792年)大黒屋光太夫(台 風にあいアリューシャン列島に漂着、後 レニングラードでエカテリーナ2世に謁 見、許可を得て帰国)をともない、ロシ ア公式使節アダム・ラスクマンが根室へ。 ロシアは光太夫に日本語を学び、シベリ ア開発のための食料購入目的・日本との 友交目的でやってきましたが、11代将軍 家斉、老中松平定信は、長崎入校許可証 を与えたものの、光太夫に「外国の見聞 みだりに語ってはならん」。さらに林子平 (経世家)が"このままでは日本は外国に やられてしまう"という「海国兵談」を 自費出版、対外軍備の急務を説いたのだ が、定信は、子平を罰し著書の版木を燃 やしてしまう。

天保8年(1837年)アメリカ東インド艦隊司令官ビッドルが、帆船モリソン号で来航、友好使節としてアメリカ大統領の国書を持参。対岸の日本に、燃料や水、食糧などの補給基地を望んでいた。アメリカもその昔は、小説「白鯨」でもわかるとおり鯨を獲っていた。当時イギリスは香港を手中に入れていた。

友好目的の穏やかな態度だったため、 幕府は力で追い返してしまった。ならば と16年後蒸気船4隻で来襲、力を見せつ けられ驚天してしまった。ペリーの3年 前嘉永3年(1850年)ジョン万次郎がボ イド号で帰国、4年アメリカ船で琉球へ、 5年土佐へ帰国。そしてアメリカに対応す るため、英語が出来、アメリカ事情を知っ ているということで直参旗本に取り立て られた。光太夫の扱いとは大きな違い。

ビッドルが来日した時に、それなりの 対応をしていたら驚天の大騒ぎをせず対 処できたかも。

ペリーは、浦賀へ来る前琉球に寄港し水兵を降ろしたが、この水兵が村の娘を強姦、今も同様の事件が少なくないが、この時は村人たちが怒って水兵を殺してしまった。連れ帰ろうとしたら殺されていたのでペリーが怒って一悶着あったというが、今こんなことをしたら日本人は殺人罪に問われ、水兵が基地へ逃げ込めばうやむや。こんな地位協定なんて取り決めこそ仕分けしてほしいものです。なぜこれを仕分けしないんでしょうかね。

話題の辺野古(このへのこというのも地方によっては隠語なんです)

円高のはじまり

アメリカから開港をせまられ、幕府は あたふたする中、井伊大老が独断で日米 修好通商条約に調印、この時為替相場を 決める交渉において、外国奉行水野筑後 守恵徳は、1ドル-1両、1両は4分だが、 忠徳は1両は3分ですと、この時に円高 が始まっているんです。頭のいい人がい たんです。

安政5年(1858) 1ドル-1両 明治4年(1871) 1ドル-1円 昭和16年(1941) 1ドル-4円26銭 昭和24年(1949) 1ドル-360円 龍馬は、慶応3年(1867) "船中八策" の中で、「金銀の交換率を海外と均一にす べきである」と示している。

太平洋戦争開戦年1ドル4円26銭だったのが、敗戦後の24年には360円と大幅な円安。そして30年前変動性により360円が260円に円高移行した時、日本はどうなるかと大騒ぎしたがそれにちゃんと対応したではありませんか。ここ1年急激な円高で大きな影響が出ているが、過去をみても日本人は対処能力がある。リーマンという来襲があったが、維新を迎えた時と同じように頑張りましょう。今回は幕末の話題でした。次号は勿論龍馬をを追いかけます。